

Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

創 立：1980年(昭和55年)11月10日
 会 長：泉 憲二
 幹 事：亀井 直人
 広報委員：山回 哲司
 例 会 日：毎週木曜日PM12:30～
 会 場：ヒルトン名古屋

事 務 局：460-0008
 名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号
 T E L：052-211-3803
 F A X：052-211-2623
 M A I L：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
 U R L：http://www.mizuho-rc.jp/



第1613回例会

～新世代のための月間～
 クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2013年9月4日(水) 曇・雨 第9回 ガバナー訪問・4RC合同例会
 於：名古屋マリオットアソシアホテル16階

司 会：名古屋東南RC会場運営委員 金井敏彦さん
 斉 唱：「君が代」「奉仕の理想」
 ゲ ス ト：第2760地区ガバナー 田中正規さん
 第2760地区幹事 榊原勝俊さん

会長挨拶

名古屋東南RC 玉木大介会長

今日は、田中ガバナー、榊原地区幹事、そして、名古屋南RC、名古屋瑞穂RC、名古屋名南RC、名古屋東南RCの皆様、ようこそおいでくださいました。本日、4RCのガバナー訪問例会がこのように盛大に開催できますことを心より感謝申し上げます。

先ほど、ガバナー、地区幹事をお迎えして、会長・幹事懇談会を行い、いろいろとご指導を頂きました。

先日、ガバナーとエレベーターの中で偶然お会いすることがありました。私は会長エレクトのときに、研修会やPETSでガバナーのお話を何度か聞いて存じ上げていますが、私はその他大勢の中の一人なので、ガバナーは当然私のことを知りません。ご挨拶させて頂き、そのときのお話をさせて頂きましたら、大変よく覚えてくださり、改めてガバナーのお人柄に触れることができ、心より感銘を受けました。

さて、名古屋東南RCは、今年45周年を迎えます。45年間続いたということは、大先輩あるいはロータリアンの各々の活動・努力があることは言うまでもありませんが、それを支えてくれた奥様やご主人、家族の恩恵が大きいのではないでしょうか。名古屋東南RCは本年度、年間を通して家族を巻き込んだ楽しい企画を予定しております。これからガバナーのお話を伺いますが、今後のロータリー活動の更なる発展の指針にしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

また、慣れないホストということで不行き届きがあるかと思いますが、ロータリアンのよしみ、好意と友情でもって大目に見て頂ければ幸いです。

本日はどうぞゆっくりとお楽しみください。

幹事報告

亀井直人幹事

- ・9月5日(木)は振替により休会となります。
- ・9月12日(木)13:40よりヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて第3回理事会を行います。

ニコボックス

高木元明ニコボックス委員長

- ・ガバナーをお迎えして
 市岡 正蔵さん 本多 清治さん 高須 洋志さん
 鶴田 浩さん 梅村 昌孝さん 堀 慎治さん
 長瀬憲八郎さん 高木 元明さん 内田 久利さん
 山本 英雄さん 大嶽 達郎さん 鈴木 淑久さん

出席報告

高木元明出席委員長

会員63名 出席38名 (出席計算人数46名)

出席率 77.6%

8月29日は補填により92.3%

4RC合同会長・幹事懇談会

例会前に、田中正規ガバナー、榊原勝俊地区幹事をお迎えして4RC合同会長・幹事懇談会が行われ、有益なご指導を賜りました。



4RC会長登壇



卓話

R.I.第2760地区ガバナー 田中正規さん

西尾RCから参りました、ガバナーの田中正規です。私は、ガバナー・エレクトとして、GETS、国際協議会に出席など多くの委員会に出席しました。初めは心配しておりましたが、各委員会、各RCから暖かく迎え入れて頂き、ほっとしています。そして、さらにロータリーを知り、大変充実した日々を送っております。

ロータリーは1905年、ポール・ハリスが、ファーストネームで呼び合える、心から信頼して取引ができる真の友人がほしい、友情を深めたいという目的でシカゴに作られました。その当時のシカゴは、だまされた方が悪いというような商業道徳も倫理観もない、混沌とした社会でした。

2月23日、鉱山技師のガスターバス・ローア、石炭商のシルベスター・シール、仕立て屋のハイラム・ショーレイ、弁護士のパール・ハリス、この4人が、シカゴのディアボーン街ユニティビル7階の11号室で初めて会合をしました。この2月23日が、ロータリーの創立の日となっています。しかし、このビルは、1989年に取り壊され、今では



イリノイ州エバンストンにある、国際ロータリーの世界本部に、711号室の扉とその当時の調度品が保存してあります。

ロータリーの創立当時は、己を慰め、自分たちの利益を追求する親睦の社交クラブでした。しかし数年後、会員以外の利益・奉仕に目を向け、社会奉仕の概念を持つようになりました。

ドナルド・カーターという人が「世のため人のため」と提唱して初めて、4人で始まったRCは、全米で、世界中で、拡大しました。1917年、アーチ・C・克蘭フリ会長が「世界でよいことをしよう」と、そのために基金の設置を提案した際に寄せられた最初の寄付金は、わずか26ドル50セントでした。後に、設立に至ったのが国際ロータリーの支えるロータリー財団です。2017年は創立100周年になります。

1921年、東京RCが加盟・承認され、1923年9月1日、関東大震災が発生し、10万人を超える犠牲者が出ました。そのとき、世界中のロータリアンが多額の寄付を日本にしました。それに東京RCは驚き、ただちに被災者支援活動を開始しました。日本のロータリアンが世界のネットワークである、ロータリーの力を知り、団体としての人道奉仕活動に目覚めた瞬間です。ロータリーが団体奉仕を否定すれば、その後のポリオブラスや、米山記念奨学会もなかったでしょう。「I serve」か、「We serve」かという議論は不毛です。

1940年、太平洋戦争にて、日本のロータリーは脱退しました。1943年、国際ロータリーが正式に「四つのテスト」を採択しました。「四つのテスト」はシカゴRCの会員で、後の1954-55年度にRI会長を務めたハーバード・J・テイラーが、大恐慌倒産の危機に迫られたアルミニウム会社を助けようと、1932年に作成した24語のテストがもとになっています。1949年、日本のロータリーは再承認されました。1950年、米国ミシガン州デトロイトの国際大会で、二つの標語を正式に承認しました。「超己の奉仕 (Service Above Self)」と「最もよく奉仕する者、最も多く報われる (He Profits Most Who Serves Best)」です。1957年4月、名古屋南RCが創立・加盟承認されました。この年は、ロータリー財団が財団プログラムの寄付者に対して、ポールハリスフェローをはじめとする認証プログラムを設置した年です。各認証については、1957年5月号の「ザ・ロータリアン」誌で発表しました。

私は、本年1月14日-19日まで、米国カリフォルニア州サンディエゴの国際協議会に、ガバナー・エレクトとして、夫婦で研修しました。朝8時半から夕方5時半まで、8回の本会議とワークショップ、パネル討論、アイデア交換などを行いました。日本人朝食会では、幸運にもRI会長のロン・バートンさんの正面になりました。ロン・バートンさんは、「ロータリーが他の団体と違う点の一つは、高い倫理基準を推進していることで、『ロータリアンは信用に値する』と、一緒に活動する団体の人々から確信してもらえます」と言われました。そして、ロン・バートンさんは、本年度のテーマを“Engage Rotary Change Lives”としました。日本語訳は「ロータリーを実践しみんなに豊かな人生を」です。

また、ロン・バートンさんは、RIの戦略計画、財団の「未来の夢計画」にも中心に関わってこられました。RIの戦略計画は、ロータリーの方向を決定づける重要な計画です。異なる国や地域におけるロータリーの状況を調べ、各地域の強み、改善点、課題を決定しました。その中で、「クラブのサポートと強化」、「人道的奉仕の重点化と増加」、「公共イメージと認知度の向上」は、戦略計画の重要項目です。より充実したプロジェクトをすると、大きな影響が起り、会員と支援者の増加になります。支援の拡大につながり、さらに公共イメージの向上になります。それにより寄付も増加し、クラブの強化になり、よい循環をするそうです。クラブのサポートと強化の目標は、「クラブの刷新性と柔軟性を育てる」、「さまざまな奉仕活動へ参加するように奨励する」、「会員の多様性を増進する」、「会員の勧誘と維持を改善する」、また、「リーダーを育成する」、「新クラブを結成する」です。それから、皆さんに考えてほしいのは、「クラブと地区における戦略計画の立案を奨励する」ことです。地区も戦略計画を考えておりますが、3年、4年、5年先に自分たちのクラブをどのようなクラブにしたのか、しっかり検討して頂きたいと思えます。

人道的奉仕の重点化と増加で、RIの一番重要な奉仕活動はポリオ撲滅です。日本ではポリオはあまり耳にしませんが、ポリオはまだ撲滅されておりません。ロータリーの最重点項目です。今は、アフガニスタン、パキスタン、ナイジェリアに残っています。ただ、なくなったといっても日本でもまだ予防接種をしているわけで、常に接種率を

高めて、ポリオの感染を防ぐということになります。ポリオの90%は、感染しても発症しません。感染して自分の体に入っても外には何も症状が出ません。1割の方(子供の場合が多い)が、腸の中から神経に侵入して、筋肉の委縮・麻痺になります。そのため、常に抗体を高め、接種を高め、外からの持ち込みを防ぐことが必要だと言われます。

当地区も、インドにポリオワクチンの接種をしにいきましたが、今年度は、ロータリーがポリオ撲滅運動に重点的に取り組んでいるということ、2月23日の新聞等マスメディアに、全国一斉で発表します。その前に、当地区は11月-4日、久屋大通で「ワールド・フード・フェスタ」を行います。その中で、「ロータリーはポリオ撲滅運動をしています」というPRをします。どうか、そこにいらっしやって、ロータリアンおよびロータリー・ファミリーと接してください。チケットを買って協力して頂くことも、大事なことだと思います。

今年、ロン・バートンさんが強調しているのは、他の団体との協力やつながりを深めてくださいということです。会員の勧誘と維持を改善する、地元と海外の地域社会へ多大な成果をもたらすプロジェクトを創造するとも言っております。

公共イメージと認知度の向上は、イメージとブランド認知を調和させ、行動を主体とした奉仕を推進し、ロータリアンが一番中核となる価値観をいつも持って頂きたい、ということです。「中核となる価値観」というのは、奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップの5項目です。これは、皆さんが持っている、ロータリーの根本、108年続いているロータリーの根っこです。これら土台がしっかりしているからこそ、国際奉仕も、社会奉仕も、青少年奉仕も、花になって実になります。自分たちのDNAを大事にしてください。公共イメージは、ロータリーが一番強調している職業奉仕をいつも頭に描いてください。クラブにおけるネットワークの機会およびクラブ独自の主な活動について、周知を図るようお願いします。「ブランドの強化」とは、ロータリーとは何であり、何をしていく団体かを伝え、活動と目標を多くの人に伝える方法を改善することです。それには、ロータリーのルーツを伝え、ロータリーのユニークさを伝え、ロータリーのメッセージを伝え、ロータリアンやクラブの意欲を高めることが必要です。

今年度のRI会長強調テーマは、会員の増強、ロータリー財団を通じた人道的奉仕の充実、ロータリー・ファミリーを通じたネットワークです。ロータリー財団を通じた人道奉仕の重点分野は、6つの分野、平和と紛争予防・紛争解決、疾病予防と治療、水と衛生、母子の健康、基本的教育と識字率向上、経済と地域社会の発展です。それを踏まえて、地区の方針、地区の重点項目は、会員の意識向上、クラブのパワーアップ、地区の改革、会員増強です。会員の意識向上は、ロータリーを日常的に意識していただいて、学び、例会、地区大会、国際大会に参加することから始まります。

今年度の国際大会はシドニーです。第2760地区のガバナーナイトも6月1日に開きますので、その場で皆さんとお会いしたいと思います。クラブのパワーアップは、効果的で人道的な奉仕活動を実践することで連帯意識が生まれます。財団は、ロータリーのためにあることを理解していただいて、財団の利用、財団の寄付に協力してください。また、クラブや地区で将来のリーダーとなる人を育てる必要があります。地区の改革は、今回初めて、地区の委員会と委員の定数を削減し、地区のスリム化を図りました。また、委員長、委員の任期を改め、新陳代謝をしました。会員増強は永遠のテーマであります。年々会員の平均年齢は1歳ずつ上昇し、高齢化します。会員増強を絶えずしないと自然に減少し、クラブの活動は低下をします。

2760地区のキャッチフレーズは、「磨いて輝こう」であります。1年間、よろしく願いいたします。

例会のご案内

■9月5日(木) 振替のため休会

■次週の卓話 9月12日(木)

卓話講師：2008年4月～2009年3月米山奨学生
楊 麗娟さん

内 容：ロータリーとの縁

■次々週卓話 9月19日(水)

卓話講師：名古屋学院大学経済学部教授
水野晶夫さん

内 容：大学と地域との連携について
～名古屋学院大学事例を中心として～